

一、次の言葉の読み方を書きなさい。1点×20=20点

- 01、原爆 02、初産 03、漁師 04、喪服 05、合併
06、不摂生 07、雨宿り 08、有頂天 09、茶飯事 10、仏頂面
11、言語道断 12、前代未聞 13、老若男女 14、断崖絶壁 15、疑心暗鬼
16、快い 17、挑む 18、罵る 19、憚る 20、瞬く

二、適切な助詞(格助詞、接続助詞、副助詞)を入れなさい。1点×20=20点

- 01、私もお母さんの二の舞（ ）演じて離婚することになった。
02、昔からこの村出身の人物には、波乱万丈の生涯（ ）送った人が多い。
03、人の話を簡単に鵜呑み（ ）するから、こんな結果になってしまうんだ。
04、あいつは平気で歯（ ）浮くようなお世辞をいう。
05、あまりの変化（ ）目を見張った。
06、人は誰（ ）が大切な相手に面と向かって言えない思いを持っている。
07、煙が煙突（ ）出ている。
08、アジア大会は明日（ ）終わる。
09、上下（ ）振動する地震が一番恐ろしい。
10、鯨は太平洋（ ）泳ぐ。
11、おじいさんは何でも知っているね。やっぱり「亀の甲（ ）年の功」だなあ。
12、どう考えても、私には恨み（ ）買うような覚えはないのです。
13、悪気があったわけではないので、どうか大目（ ）見てください。
14、親（ ）充実した生活を送っていれば、子供はそれを見て育つ。
15、自分でやって（ ）辛さがわかる。
16、頭が痛くて、割れん（ ）だった。
17、千円（ ）、百円も持っていないのよ。
18、台湾の経済は先進国に向かって発展し（ ）ある。
19、この本は小学生で（ ）読めるのだから、あなたは簡単に読めるでしょう。
20、張さんは10年も東京に住んでいた（ ）あって、東京のことは何でも知っている。

靜宜大學 101 學年度碩士班暨碩士在職專班招生考試試題

學系：日本語文學系碩士班

科目：日文

三、次の中国語の文章を日本語に訳しなさい。5点×2=10点

1. 外交是國力的延伸，在百年國家慶典前夕，外交部送給國人一份大禮——百國免簽達陣。至今中華民國護照已可在全球 117 個國家與地區自由通行，台灣民眾成為各國張開雙手歡迎的朋友。
2. 許多人都知道：全球暖化將使冰山融化，海平面上升，極端氣候頻率增高。但可能不知道：暖化也將造成全球生態鏈的基石——珊瑚礁——大量白化，進而死亡。

四、次のことわざを中国語に訳しなさい。1点×10=10点

01. 泣き面に蜂
02. 知らぬが仏
03. 鬼に金棒
04. 馬の耳に念仏
05. 月とすっぽん
06. 三人寄れば文殊の知恵
07. 蛙の子は蛙
08. 急がば回れ
09. 転ばず先の杖
10. 地獄の沙汰も金次第

五、次の文章を 300 字程度で要約しなさい。10 点×2=20 点

(注意！)文章の表現に頼りすぎてはいけない。あくまで自分のことばでまとめなさい。

テキスト丸写しに近いものは 0 点とする！

1. 浴衣は夏に着る最もラフな着物で、元々は湯上りに着る室内着でした。しかし最近では浴衣の柄や素材の変化により、夏になるとお祭りや花火大会など内外問わず浴衣を見かけるようになりました。また、普通の着物より簡単に着付けでき、価格も手頃なことから特に若い世代や外国人に人気の夏の定番着物です。

浴衣は安価で着付けも簡単なため日本人に最も受け入れられており、子供からお年寄りまで幅広い人気です。浴衣は元々湯上りに着用していた着物なので、涼し気に見えるよう、白地や藍地、紺地に秋の草花を染めた柄が一般的です。しかし現在では和服ブームに伴い 10 代から 20 代対象の洋服ブランドもこぞって浴衣を製作・販売し始め、原色ベースのカラフルなプリントを施したものも多く出回っています。昔からある白地や紺地に古典模様の浴衣は「古典的」、今風の鮮やかな彩りの浴衣は「ブランド浴衣」と言われます。

浴衣の起源は平安時代、貴族が蒸し風呂に入るとき、水蒸気でやけどしないように着た「湯帷子〔ゆかたびら〕」がはじまりとされています。帷子〔かたびら〕とは麻の着物のことです。その時代、綿は高級品とされたため、装束の下着となる薄い着物は麻で作られていました。江戸時代後期になって、綿の生産量が高まり庶民に普及するとともに、湯帷子の生地も麻から綿に変わりました。また、銭湯の普及にともない着用が増えたため、略されて「ゆかた」と呼ぶようになりました。現在では風呂上がりだけではなく、夏に着る着物として定着しています。

浴衣には暑い日本の夏を快適に過ごす工夫が凝らされています。例えば、古典的な浴衣には、紺地と白地が多く見られます。白地の浴衣は昼用で、家の中で着ると真夏でも涼しく過ごせます。紺地の浴衣の場合、紺色に染めるために使われている「藍」の香りを虫が嫌うことから、虫の多く出る夕方から夜にかけて着用するのが良いとされています。浴衣には暑い夏を快適に過ごすための日本人の生活の知恵が染み込んでいます。

2. 刺身は、新鮮な魚の切り身を生で食べるシンプルな料理です。一般的に関東地方では「お刺身」関西地方では「お作り」と言われ、関東地方ではマグロなどの赤身の魚が好まれ、関西地方では鯛などの白身の魚が好まれる傾向があります。刺身という言葉は、もともと赤身白身問わず様々な種類の魚の切り身を皿に盛り付ける際に、魚の種類を区別しやすくするため、その魚のヒレを切り身に刺して出した事から由来しています。次第に本来のヒレを刺す風習がなくなり「刺身」という名前だけが今に残ったと言われています。また「刺身」の事を「切り身」と言わないのは、武家時代に「切る」という言葉が人を「切る」に繋がるという事で忌み嫌われていた事に由来しています。更に「刺身」という名前も「身を刺す」に通じ縁起が悪いとされ、関西地方では「お作り」と呼ばれるようになりました。

刺身の原形は鎌倉時代に始まったといわれています。もともとは魚を薄く切って生のまま食べる漁師の即席料理でした。室町時代に入り、醤油の誕生と普及にともない現在のよりにわさび醤油をつけて食べるようになりました。しかし醤油はまだ高級品であったため、刺身は身分の高い人々しか食べる事のできない高級な料理でした。一般庶民に刺身料理が広まったのは、醤油が庶民にも普及した江戸時代の末期からで、江戸では刺身を専門に扱う「刺身屋」という屋台もでるほど流行しました。現在では代表的な日本料理として世界中に知られています。

刺身の盛り付け方は、もともと「一器一種」という決まりごとがありました。これは一つの器に数種の魚を盛り付けると、魚の匂いが移り素材そのものの味を美味しく味わう事ができなくなるので、一つの器に一種類の魚しか盛らないという決まりごとです。しかし現在では数種の魚を一つの器に盛り付ける「盛り合わせ」が一般的となっています。盛り合わせは元々、江戸時代末期、大衆に刺身文化が広まった頃、庶民が魚屋にお皿を持って行き、適当に盛り合わせてもらったのが始まりであると言われています。

六、作文（400字以上書くこと）。20点

題目：「日本語を勉強してよかったこと」